



みちのくコカ・コーラ杯キッズサッカーフェスティバル2015 写真館

日 時： 2015 年 7 月 18 日(土)～19 日(日)
 会 場： 盛岡南公園球技場
 主 催： 公益社団法人岩手県サッカー協会／公益財団法人盛岡市体育協会
 共 催： 株式会社岩手朝日テレビ
 主 管： 公益社団法人岩手県サッカー協会 キッズ委員会
 後 援： 岩手県教育委員会／盛岡市／財団法人岩手県体育協会
 特別協賛： みちのくコカ・コーラボトリング株式会社
 協 力： ミズノ株式会社
 参加者総数： 1,051 名 (U-8 40 チーム 277 名、U-10 64 チーム 774 名)
 運営スタッフ： ユース審判・チーム帯同審判、JFA 公認キッズリーダー(社会人)ほか

1 日 目 ◆7 月 18 日 (土)

- ・U-10 の部 予選リーグおよび決勝トーナメント進出決定戦(8 人制ゲーム、64 チームを 16 グループ分け、グループ上位 2 チームが 2 日目の決勝トーナメント進出決定戦を行う)

U-10 開会式の様子



U-10 試合の様子



2日目 ◆7月19日(日)

- ・U-8の部 リーグ戦(5人制ゲーム、40チームを10グループ分け)
- ・U-10の部 決勝トーナメント

U-8開会式閉会式の様子



U-8開会式閉会式の様子



U-8 試合の様子





【U-10 決勝トーナメント】 南公園球技場 Bグラウンド



MY GAME IS  FAIR PLAY



【2日間を終えて】.....

みちのくコカ・コーラ杯キッズサッカーフェスティバル2015総括

<全体統括者（瀬谷圭太 キッズ委員会委員長）のコメント>

今回のフェスティバル全体を通して見ると、「グリーンカード」がよく似合う2日間だったと思います。なぜかという、グリーンカードの説明にあるように、あいさつをしっかりとすること、相手をリスペクトした上での全力のプレーがあったことが、随所に見られたからです。ここ数年、総括に、グリーンカードの話が多く上がります。みなさんが相手をリスペクトしているからだと思います。

U-8では、キッズの本質である「サッカーを楽しむこと」をたくさん感じてもらいたいと思いながら試合を見ました。

どのピッチでも、歓声が上がリ、楽しそうであり、さらに真剣なまなざしでボールを追いかけている姿がたくさん見られました。

チームの仲間や試合相手とサッカーを楽しむ。これだけでも「グリーンカード！」と言いたくなるのですが、さらに、2つ素晴らしいことがありました。

その1つ目は、あいさつを大きな声でしていたこと。2つ目は、各チームとも、スタッフの話をよく聞いて楽しく活動していたこと。話を聞くことができること、当たり前ですが、U-8のみなさんは特に立派でした！

U-8キッズの、参加したみなさんに、「グリーンカード！」です！

U-10では、3つの視点を持って見ました。

1つ目は、キッズの本質である「サッカーを楽しむこと」と「本気の勝負」を、子どもたちに、たくさん体験してもらいたい、と思いながら試合を見ました。

2つ目は、4年生までの年代で、どんなことができ、どんなことが課題であるかを、指導側として、これから先を見据えるための視点を持って見ました。

3つ目は、オン・ザ・ピッチでも、オフ・ザ・ピッチでもグリーンカードに値するプレーがたくさん出るかな？と思いながら見ました。

(1) サッカーを楽しむこと・本気の勝負

今回のフェスティバル、初日の予選リーグでは、拮抗した試合が多かったです。その拮抗した中で、本気の自分のプレーをし、本気の相手との勝負を通して、さらに上手になったり、もっとうまくなろうという気持ちを持ったりという場面をたくさん見させてもらいました。特に、ボールを持ったときに、スペースを見つけると、ぐいぐいとチャレンジしていく姿や、周りを見て、仲間を信じてパスを回す姿などは、上手だなと思いつつ見ました。「もっとうまくなりたい！」を感じたのは、プレーの節々に、「自分はこうしなかった」と口で言ったり、身振り手振りをしたりする子がいたことです。本気の勝負をする中で、子どもたちは成長しているんだと感じました。

(2) できることと課題

①できたこと、よかったこと。

- ・ボールを持ったときに、ゴールに向かうプレー。
ドリブルで突破を試みるプレーが良かったです。また、ゴール前で落ち着いてまわりの仲間にパスをする場面も見られました。
- ・相手に取られないプレー
前に進みたいけど、ドリブルのコースに相手がいる。そのときに、ターンをして次のプレーの選択をしていくというプレーがいくつか見られました。この年代で、顔を上げてパスコースを探すこともできる！がスタンダードになると良いと思いました。
- ・未来のなでしこ。
女子選手の活躍が目立っていました。女子中心のチームや、各チームの主力として参加している選手もいました。なでしこジャパンの選手は小学校のころから男子に混じって男子に勝つほどがんばっていたそうです。是非、岩手の女子選手にも、目標を高く持ってプレーしてほしいと改めて思いました。

②これからの課題。

★キッズはサッカーを楽しむことがメイン。しかし、楽しむためには、技術の向上ももちろん必要。これからのキッズを考えて、4年生には敢えて課題を考えました。

- ・ファーストタッチ
自分のもっとも蹴りやすいところに、いつでもどこでもコントロールできるようになってほしいと思いました。
- ・ボールのもらい方。
年代的に、そろそろ自分と仲間と相手とを考えられるようになっていくはず。試合時間の90%以上はボールのない時の動きをしています。ここがこれからの大きな課題になると思います。
- ・シュートの質
「ただ蹴る」から、「ねらって蹴る」への転換が必要なのかもしれないと思いました。決勝での素晴らしいゴール。あのような素晴らしいシュートをU-10の目標にしたいと思いました。これからのキッズ指導でももう少しキックの質、シュートの質にこだわって指導をしたいと思います。

(3) グリーンカード

今回は、本当にあいさつがすてきな選手がたくさんいました。ピッチに入っていくとき、スタンドで見ているとき、会場を後にするとき、いつでも“あいさつ名人”がたくさんいました。その様子を見た、たくさんの来賓の方々や関係者から、お褒めの言葉をいただけたこと、私たちもうれしかったです。

決勝で、審判が良いプレーに積極的にグリーンカードを提示していました。あの場面を見た子どもたちが、「あ！でるんだ！」「またでた！」「すげえ！」などと言っていました。子どもたちはクリーンなサッカーに興味があります。これをスタンダードにすることで、きっと岩手の子どもたちのサッカーもリスペクト精神にあふれる素敵なものになると思います。審判団の方々にも感謝です！

また、ボールを拾ってもらったときに「ありがとうございます」とすぐに言える選手もすてきでした。U-10キッズの、参加したみなさんに、「グリーンカード！」です！

キッズ年代は、育成年代でも「楽しさ」が特に大切な年代です。もちろん、上達していくように指導することもとても大切です（だからこそ、課題を上記しました）。しかし、技術同様に、全力でやること、協力すること、感謝すること、まわりに感動を与えられたり、自分たちが感動させられたりするくらいに取り組むことが大切だと子どもたちのプレーを見て思いました。

最高の芝生のピッチで、キッズのみんなが最高のプレーができたこと。これは、たくさんの方々のお力添えがあったからできたことでした。

みちのくコカ・コーラ様、岩手朝日テレビ様をはじめたくさんの方々のお力添えのおかげで、このキッズサッカーフェスティバル2015を開催することができました。おかげさまで、子どもたちの笑顔に出会うことができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

<U-10 競技運営 審判担当（千葉晃徳）のコメント>

2日間、各チームの帯同審判の皆様、盛岡市立高校、中央高校、盛岡誠桜高校の生徒の皆様のご協力のもと運営できました。ありがとうございました。ユース審判の中には、将来が期待できそうな生徒もおりました。

毎回のことですが、ゲーム中のグリーンカード提示がこのフェスティバルで求められている審判の役割だと思っているので、この部分に関しては、まだ課題があります。今後の改題として取り組みます。

<U-8 フェスティバル担当（新沼真介）のコメント>

7月18日19日の2日間にわたって開催されたこの「みちのくコカ・コーラ杯キッズサッカーフェスティバル2015」U-8は2日目に開催されました。天気にも恵まれ暑い中にも楽しい試合がたくさん見られあした。関係者のみなさんのご協力により円滑に大会が進められましたことに感謝いたします。

来年もこの大会でみなさんに会えることを楽しみにしています。ありがとうございました。

2日間のみなさんの笑顔にグリーンカードです。

【編集】蝦名浩明(県協会事務局)